

■農業水利施設ストックマネジメント推進会議施設管理研修会開催

平成24年11月22日(木)に亘理町中央公民館及び岩地藏揚水機場にて、県主催の農業水利施設ストックマネジメント推進会議施設管理研修会が開催されました。宮城県土地改良事業団体連合会渡辺技術主幹より1次機能診断簡易マニュアルの内容や揚水ポンプ構造の説明後、3班に分かれ実地研修として1次機能診断を行いました。

現地では適正化事業にて揚水ポンプをオーバーホールしていたため、普段確認できない部品の説明など実務に直結した研修会となりました。(研修参加人数47名)



ポンプ設備の各部の説明

(各部品の役割、維持管理の方法等事前に確認しました。)



ストックマネジメント事業の説明

(地域ストマネ等の説明をしました。)

オーバーホールしたポンプ内部

(普段は、なかなか見ることはできません。)



1次機能診断の説明

(音、振動、温度などを基に簡単に診断できました。)



■団体営水利施設整備事業(地域農業水利施設保全型):【地域ストマネ】の紹介

団体営水利施設整備事業(地域農業水利施設保全型)(以下【地域ストマネ】)は、県営造成施設・団体営造成施設を対象としたストックマネジメント事業です。

採択要件は、

◎法律補助及び予算補助(対策工事)

- ・A=100ha以上/施設(国補助で機能診断した場合)
- ・A=10ha以上/地区(国補助以外で機能診断した場合)
- ・3千万円以上/地区かつ200万円以上/1施設

◎補助率【国50%、県15%、地元35%】【(過疎等)国55%、県15%、地元30%】となります。

地域ストマネは、土地改良施設維持管理適正化事業【30%、30%、40%】より、地元の負担が5%~10%軽減されるメリットがあります。100ha以上/施設の場合には当事業で機能保全計画の作成ができますが、100ha未満/施設の場合には、土地改良施設機能診断事業(県単)等で機能保全計画の作成が必要となります。

計画的に更新計画を立てることで、有効な事業となりますので、詳細を知りたい方は、宮城県農林水産部農村整備課までお問い合わせください。

■定期的な維持管理について

岩地蔵揚水機場で行われた研修会では、上部ケーシングが開放されていたためポンプグランド部の状況を詳細に確認することが出来ました。新しいパッキン（左側）と古いパッキン（右側）とでスリーブの摩耗にどの程度差が出るのか比較してみました。パッキンスリーブの摩耗限度は直径の3%程度といわれています。



（写真1）
新しいパッキン（左側）は柔らかなままですが、古いパッキン（右側）はカチカチに硬くなっています。
（古いパッキンは12年前の整備時のパッキン）



（写真2）
内側（右側）は堅いパッキンとの摩耗により、波打つように削られています。
外側（左側）のパッキンも交換しないで使用していたとすると、空気を吸い込み、真空を取ることができないことから落水の危険があったと考えられます。

施設管理者である亘理土地改良区は、外側のグランドパッキンを毎年交換しています。定期的にグランドパッキンを交換することで不具合が発生するリスクを大きく軽減させる事ができます。

■ストマネ豆知識

右の写真は、湛水防除事業で造成された排水機場の真空ポンプです。シャフトにパイプレンチを掛けた跡が多数見られるため、手回しが出来ない状態であったことが推測されます。

これは稼働時間が少ない事が原因の一つとして考えられます。このような稼働時間の少ない施設の対策としては、定期的到手回しを行うことの対策が有効です。



○問い合わせ先 宮城県農林水産部農村整備課 水利施設保全班 TEL 022-211-2876
HP <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonsei/sutok1-1.html>
宮城県土地改良事業団体連合会 管理指導部 TEL 022-263-5812